

女子日本代表選手強化育成方針について

～ デフトレインズ 自分とみんなの力を信じて前へ ～

目的

- ①2025東京デフリンピックでの金メダル獲得のための強化育成を目指すため
- ②デフバスケットボールに関わる若い世代の人材育成のため
- ③手話や視覚的コミュニケーションを基本としたデフバスケットボールの在り方追求のため
- ④バスケットボールを通して、ろう者と聴者が共生する社会の実現を目指すため

現状と目指す姿

DIBFの2022年夏季オリンピック後の女子世界ランキングは10位という状況（2023年3月）にある。日本デフ女子バスケットボールの選手は、現在10代から20代の若い選手が多く、聴者の全国レベルの大会に参加する選手も数名在籍することから、個々の実力としては、ランキングより上であると考えている。しかしながら、近年世界のレベルも急激に上昇しており、その変化に対応し、2年半後の東京デフリンピックでメダルを獲得するためには、さらなる個々のレベルアップと現在JBA日本代表が目指すアナリティックバスケットを身につけることが必要であると考える。

また、全員バスケットで、どの選手が出場してもチームとして一定のレベルで活躍することが望まれることから、若い世代の選手の育成についても重要であると考える。デフバスケットの探求の視点から、全国各地のチームや選手で使用する手話について、整理と作成が必要であり、日常的なコミュニケーションを共有するシステムを作成することが求められている。

ビジョン

①2023年度は、アナリティックバスケットの定着と個々のスキルアップ、2024年度は、実践を多く取り

入れたレベルアップ、2025年度は、最終調整と考えている。それぞれの選手らが自分たちのもてる力を存分に発揮し、デフバスケット初のメダル獲得ができるができる可能性が大きいにあると考える。

②デフバスケットに興味を持ち、全国に通う聾学校の生徒や次世代を担う若い世代（小、中、高校生）が日本代表合宿に育成選手として参加できるシステムを構築することで、2025東京デフリンピック後も次世代の選手らが日本代表の強化指定選手にスムーズに移行していくことを考えている。JDBAが今

後、継続持続が可能なシステムを実施するために世代別に必要な力を表記し、それぞれの発達段階に応じたねらいをもって、代表合宿に参加することが望ましい。日本代表選手を間近に見ることで、自分も将来このような選手になりたいとデフロールモデルに触れる機会としたい。強化指定選手らも自らが後輩たちに示せる強いアイデンティティと誇りをもってプレーを示す必要がある。

③バスケットの専門用語を日本代表を中心に手話単語として整理し、用語と練習内容を一体化してチームのシステムとして落とし込み、2023年度中に一定のバスケットボール用語の手話ラベルを作成する。選手らが同じ絵をイメージ共有しながら、2024年度に更なるスキルアップやチームとしてのレベルアップを目指していきたい。また、強化委員長の須田氏が提案する「サインバスケットボール」の最終的に目指すところは、普段から十分な手話言語を使用したコミュニケーションをするプロセスを大切にし、選手自身が主体的に意見を言語化して周囲に伝え、受け手も相手の意見を傾聴するそのプロセス（過程）を最も重視している。日々合宿やZOOM MTGでの手話による十分なやり取りの中で安心して選手らがプレーできることが重要である。2025年度の時点では、それぞれがイメージする絵

をより少ないサイン、あるいはアイコンタクトで実現できることを目指したい。その過程で培ったる

う者のメソッドを次世代に引き継いでいくことを狙いとしている。

- ④ろう者と聴者が共に手を取り合っていく社会を目指したい。バスケットボールや手話を通して交流が生まれ、聴者は新しい価値観と出会うことになる。ろう者にとっても同様であり、お互いの立場や言語を尊重する姿勢が重要である。ろう者であっても手話言語の環境がなく育った場合には、手話という言語を身につけるには時間を要する場合がある。まずは、多くの手話に触れ、インプットしていく時間と環境が重要である。SDGsの置いてけぼりを作らないという理念を尊重し、常にデフリンピックの意味を問い合わせ続けるものである。お互いに歩みよりながら、一步一步前進していく社会を目指すことを恒久のねらいとしたい。

強化育成方針の概要

1 ランクについて

- ①日本代表選手を3つのランクに分ける

強化指定選手・・日本代表上位カテゴリー（10名）

育成選手・・日本代表中位カテゴリー（10名）

U18強化指定選手・・18歳以下の小中高校生対象の日本代表下位カテゴリー（10名）

※ただし、小中高校生であっても、全国経験者など経歴等の一定の基準を満たせば、
上位カテゴリーに選出される。

- ②合宿終了後に、チームスタッフやコーチ陣で協議し、ランクの昇格と降格を行う。

- ③ランクの見直しにより、日本代表選手から降格し、日本代表外になる可能性がある。

- ④聴者の全国レベルの大会に主要メンバーとして参加する場合は、合宿参加と同様に扱うことができる。ただし、大会の正式名を強化委員に提出し、監督の承認を得ることを条件とする。

- ⑤個人的な諸事情により、連続して合宿不参加となった場合は、降格の可能性がある。

怪我など状態による不参加については、その都度申し出が必要である。

3回連続不参加・・1ランク降格、4回連続不参加・・日本代表選手の資格を失う。

- ⑥日本代表選手に向けてのオンライン MTGを月に1回程度実施をする。

必須型MTGと有志参加型とあるが、必須型については、合宿と同様の扱いとする。

2 トライアウトについて

- ①トライアウトを設けず、代表合宿ごとに数名程度のトライアウト枠を設定する。

- ②日本代表選考基準（聴力など）を満たしている者、日本代表から降格した者が参加できる。

- ③10歳以上の選手とする。ただし、全国経験者など経歴等によっては、スタッフ間で協議し年齢に関係なく参加が認められる場合がある。

3 デフリンピック日本代表の選出について

- ①デフリンピックが開催される年に、強化指定選手より10~12名選出される。

- ②強化指定選手が10名に満たない場合は、育成選手から選出される。

- ③最終決定については、JDBA強化委員会によって決定され、JDBA理事会にて承認される。

4 証明書の発行について

希望する日本代表選手には、日本代表の証明書を発行する。

- ①活動経費の補助を申請する場合。

- ②勤務先や教育機関（高校や大学）へ休暇を申請する場合。

- ③日本代表の身分を証明する必要があると認められた場合。

5 メディアなどの対応について

新聞やテレビなどに掲載・出演する場合は、一般的にわかりやすい「日本代表候補」という名称を使用して構わない。また、JDBAにてHP等に掲載して周知するため、JDBA日本代表強化委員会へ一報入れることが望ましい。その際のインタビューでは、手話を使用することをお願いしたい。

6 合宿の交通費等の助成について

強化指定選手については、強化合宿に参加するために必要な交通費と宿泊費等の一部を支給する予定である。育成選手、U18強化指定選手については、2023年度については、支給を予定していない。2024年度以降については、強化指定選手については、全額支給。育成選手、U18強化指定選手についても一部を支給を目指していきたいと考えている。

トライアウト選手については、参加に関する費用は全て自己負担とする。

7 その他

U18強化指定選手の合宿および、大会参加については、保護者の同意を必要とする。

[日本代表基準]

- ・基準は、世界との競争力を考慮し、監督、コーチ、スタッフ等の協議にて隨時変更をする。

	ランク名	基準（全ての条件を満たしていること）	備考
日本代表選手	強化指定選手	<p>①世界大会で勝利に貢献できる資質を有していること。</p> <p>②日本代表に相応しいモラルを有していること。</p> <p>③デフバスケット発展に貢献できる資質を有していること。</p>	10名
	育成選手	<p>①世界大会で勝利に貢献できる資質を有する可能性が高いこと。</p> <p>②日本代表に相応しいモラルを有する可能性が高いこと。</p> <p>③デフバスケット発展に貢献できる資質を有する可能性が高いこと。</p>	10名
	U18育成選手	<p>①10歳以上18歳未満（小学生～高校生）であること。</p> <p>②将来、世界大会で勝利に貢献できる資質を有する可能性が高いこと。</p> <p>③将来、日本代表に相応しいモラルを有する可能性が高いこと。</p> <p>④将来、デフバスケット発展に貢献できる資質を有する可能性が高いこと。</p>	10名
日本代表外	トライアウト選手	<p>①日本代表を志し、基準を満たすために努力を惜しまないこと。</p> <p>②デフバスケットの発展のために貢献する意思を有していること。</p>	数名

[日本代表選出条件]

- ・日本代表選手は、①～⑥の条件を必ず満たし、⑦または⑧に該当すること
- ①日本国籍を持っている者
- ②2023年度JDBA会員である者
- ③裸耳状態で、聴力損失が55dBを超えており聴覚障がい者（身体障害障害手帳所有者）
- ④JDBAが指定する講習会を受講すること
- ⑤日本代表選手に選出された当該年度より全日本ろうあ連盟に会員登録できる者
- ⑥周囲と積極的に意思疎通を図ろうと努力を続けることができる者

- ⑦日本代表を志し、デフバスケットボール（サインバスケットボール）の発展に寄与できる者
- ⑧デフバスケットボール（サインバスケットボール）の発展のために、自らの競技力向上を志す者